

## Vol.10

### 懇談会取りまとめの具体化に向けて

# Graphic Recording



本データは懇談会における議論の可視化を目的として、富田 誠（東海大学専任講師）の指導のもと、早稲田大学大学院ジャーナリズムコースの学生と東海大学デザイン学課程の学生が制作しました。

**制作** ○永井結子（東海大学）  
小澤 拓弥、（東海大学 芸術学科 デザイン学課程）  
角野 雅美、宮本 裕人（早稲田大学院 ジャーナリズムコース）

**技術協力** 株式会社 MetaMoJi（使用ソフト Share Anytime）

政府 家族 市場 という三つの枠組みはもう古い？

### 新しい参加型社会とは

「大きな政府」より  
「大きな社会」

国ではなく、人々が社会を大きくする。人々がコミュニティに参加しやすくなるためには、政府が直接何かするのではなく、社会やコミュニティを良くすることが必要

### 参加型社会の持続可能性

「自分ごと」とリーダーシップ

一人一人が「自分ごと」としてとらえることが大事

ITで個がゆるく繋がるといわれる時に、誰がリーダーシップを発揮して、誰がデザインしていくかというノウハウも必要

「誰がどういう形で支えるか」という仕組みは、完全な色分けではなくグラデーションがあり、これからは支えられる側の人々が増えていくことを理解する必要がある

国境を越えて

共同体・コミュニティはネットワーク化されたテクノロジーを使えば、世界中の人を巻き込むことができる

コミュニティー？

自治会や町内会等の地縁型コミュニティとSNSなどに見られるテーマ型のコミュニティーがある

営利・非営利は重要な違いじゃない。やりたいことをガバナンスできていればよい

隙間の共同体？

シェアハウスのように家族じゃないが、家族より助け合える関係も生まれている

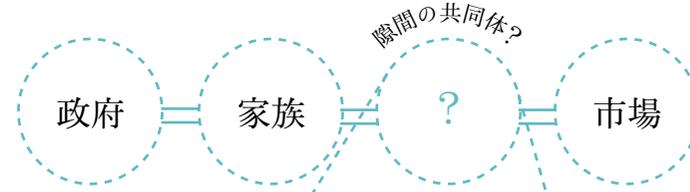
これをなんと呼ばばいいのだろうか？

アソシエーション？

アメリカではアソシエーション。自由な連帯があり、場合によっては解散したり仲違いすることもある

連帯？

日本では連帯という拘束力が強いイメージがある



## 話題提供の発言 Keypoint

当日のプレゼンターは  
公式ウェブサイトに掲載されています。



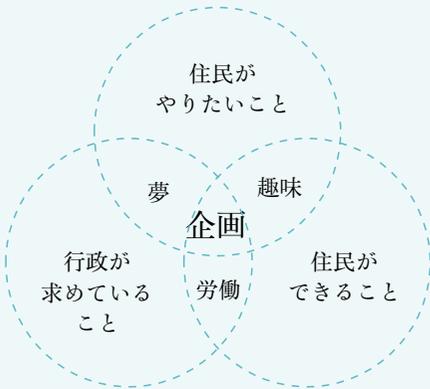
山崎亮さん  
株式会社 studio-L 代表

### NO Community, NO Life

地縁型とテーマ型コミュニティを混同しないことが大事

「行政が住民にやってほしいこと」と  
「住民が街のためにやりたいこと」にずれがある

小規模自治体が大都市化してもその先に未来はない  
「参加型」「共助」を盛り込んだ新しい地域のカタチ

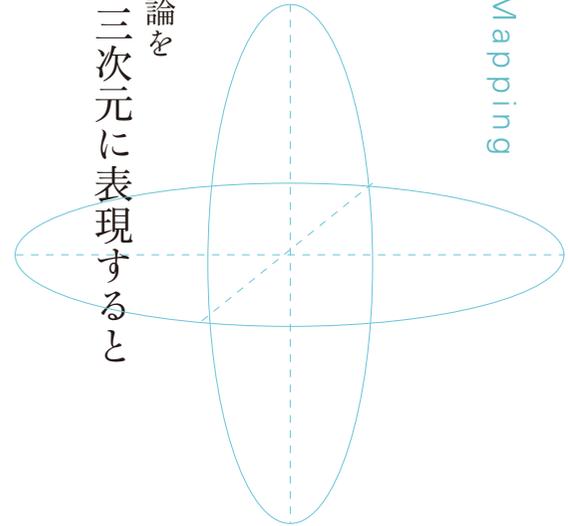


公共的な事業の住民参加を通じて地域間でのゆるい繋がりを作る

行政がやってほしいことに参加するプロセスをどう楽しくするか、両者のずれをどう調整するか、どう重ね合わせをつくるか、こういうことのため国のサポートはどうあるべきかを考える

今までの議論を

三軸で三次元に表現すると



分類する意味は

無理に分けられないのでは？  
ラジオ体操には受身的だが、  
ヨガには積極的とか。これを  
分類することよりも、どうやっ  
てワクワクするコミュニティに  
するかが大事ではないか

税金を払って国にお願  
いするのか、何らかの  
コミュニティで支え合うの  
かなど、社会のあり方と  
して、全体の集合として  
考えないといけない時に  
どこを目指すべきか

個々人の活動の話とい  
うよりも、全部まと  
めるところでどうかとい  
う話。言い換えれば、  
家族が希薄化した結果  
生まれる空白部分につ  
いてどう考えるのか、  
パブリックにどう関与  
するかという話

### 公助の軸

「小さな政府」と「大きな政府」

政府に金がないから、  
自助を考えようという  
ネガティブな話でもない。  
社会の目標が明確に  
あれば、国が社会像を  
描けたが、社会は多様  
化し成長し、何が本当  
に人々の幸福なのかは  
わからない時代になっ  
た

公助の軸と自助の軸は相関ある。  
ただ共助の軸が隠れているのがポイント。  
自由な個人を前提とするリバタリアンモデル  
とコミュニティを軸にしたコミュニタリアン  
モデルがある

3つの軸は独立しているのか、繋がっているのか？

大きい政府と受身的と  
他人事がひとつのよう  
に思う。大きい政府が  
限界にある中、小さい  
政府だけでは解決しな  
いから、主体的で自分  
事な社会が求められる  
ということ。そう考  
えると、それを独立で  
考えることには無理  
がある。

### 自助の軸

「主体的」と「受身的」

主体性というのは、それ  
を認める社会を目指  
そうというポジティブ  
な側面もある。主体  
的と受身的とあるが、  
リスクも引き受ける  
が自由か、リスクは  
国が引き受けるが選  
択する自由がないか、  
といった言い方も  
できる

### 共助の軸

「自分ごと」と「他人ごと」

コミュニティに近づく  
ことで皆で楽しむか、  
遠ざかることで自分  
だけの幸福を追求す  
るのか、チョイスの  
問題。積極的自由  
(ポジティブに活動  
するか)か、消極的  
自由(抑制すること  
で好き勝手できる)か  
という言い方も  
できる

コミュニティの在り方  
と個人の在り方は連  
動しない。自助の軸  
と共助の軸の組み合  
わせをどうするかを  
詰めないといけない  
ところではないか